

# 据置台 ROP-9201-G 設置工事説明書

適応機種：IS-0605・IS-0606シリーズ  
RF-1W

この製品は、上記の機種を据置設置する際の据置台、または側面壁掛設置する際の配管カバーとして使用してください。(RF-1Wは防火評定上、側面壁掛設置や側面近接設置をすることはできません。)

## 警告

### 設置工事は専門の資格者が行う

●機器本体およびこの製品の設置工事には専門の資格・技術が必要です。設置工事は必ずお買い上げの販売店に依頼し、お客様自身での設置工事は絶対に行わないでください。思わぬ事故となります。

### 設置工事をされる方へ

●この説明書と機器本体の設置工事説明書、「ガス機器の設置基準及び実務指針（一般財団法人日本ガス機器検査協会刊）」をよくお読みになり、正しい設置工事を行ってください。この説明書および機器本体の設置工事説明書に記載されている以外の方法による設置工事が原因で生じた事故および損傷、人身事故等は設置工事者の責任となります。

燃焼機器を設置する場所は、建築基準法や火災予防条例に定める防火処置等に適合する必要があります。また当該地区の市・町・村等の火災予防条例にも従ってください。

●作業時はけが防止のため手袋などを着用し、手を保護してください。

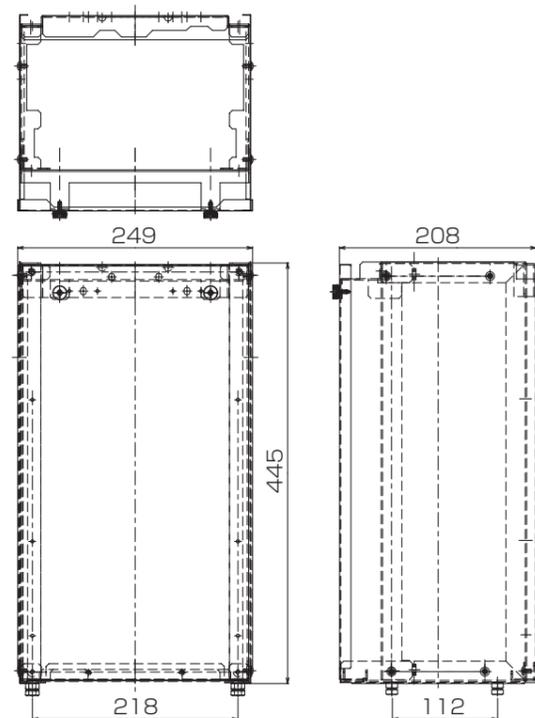
## 1 同梱部品の確認

番号	部品名	個数	備考
①	据置台本体	1	
②	フロントカバー	1	
③	化粧ビス	2	
④	本体取付板上	1	
⑤	本体取付板下-後	1	
⑥	本体取付板下-横	1	
⑦	⊕トラスFTねじ	2	M4×8
⑧	⊕小ねじ	2	M5
⑨	⊕トラスタッピンねじ	2	φ4×10
⑩	オールプラグ	1	#10×32
⑪	丸木ねじ	1	φ4.8×32
⑫	絶縁ワッシャーA	1	
⑬	絶縁ワッシャーB	1	
⑭	座金	1	

### 別売部品

据置台固定金具

## 2 外形寸法図 (mm)

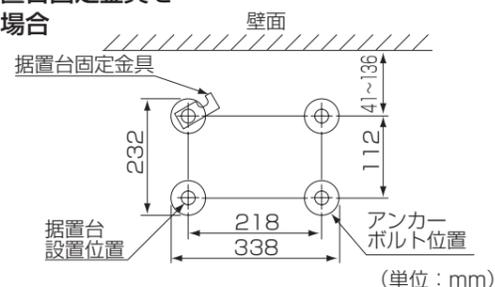


## 3 機器の設置

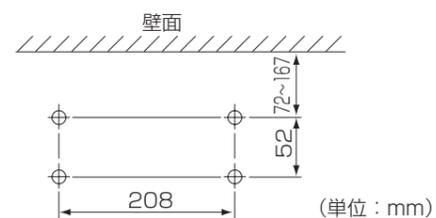
### ■ 熱源機を建物外壁を背にして据置設置する場合

(1) 据置台の設置場所にアンカーボルトを打ちます。

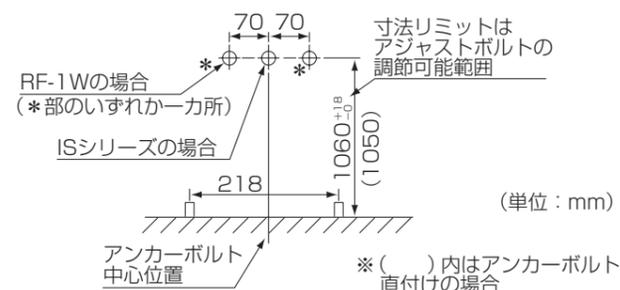
#### ● 別売の据置台固定金具を使用する場合



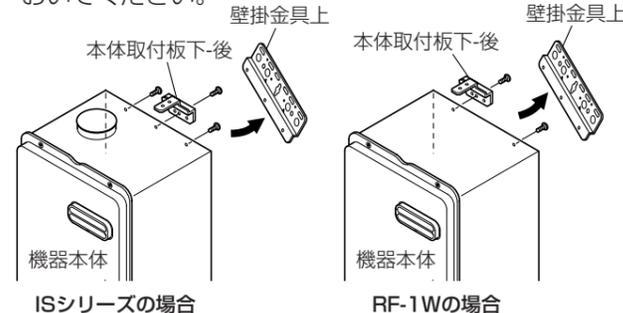
#### ● 直付けの場合



(2) 本体取付板上固定用オールプラグを建物外壁に打ち込みます。下穴は径φ7mm、深さ30~35mmです。



(3) 機器本体に取り付けられている壁掛金具上を取り外します。その後、ねじ穴のうち中央の穴 (RF-1Wの場合は手順(2)のオールプラグ位置にあわせ、左右いずれかの穴) に、付属の本体取付板下-後を、ねじ1本で取り付けます。残りのねじ穴にはもと通りねじを締め付けておいてください。



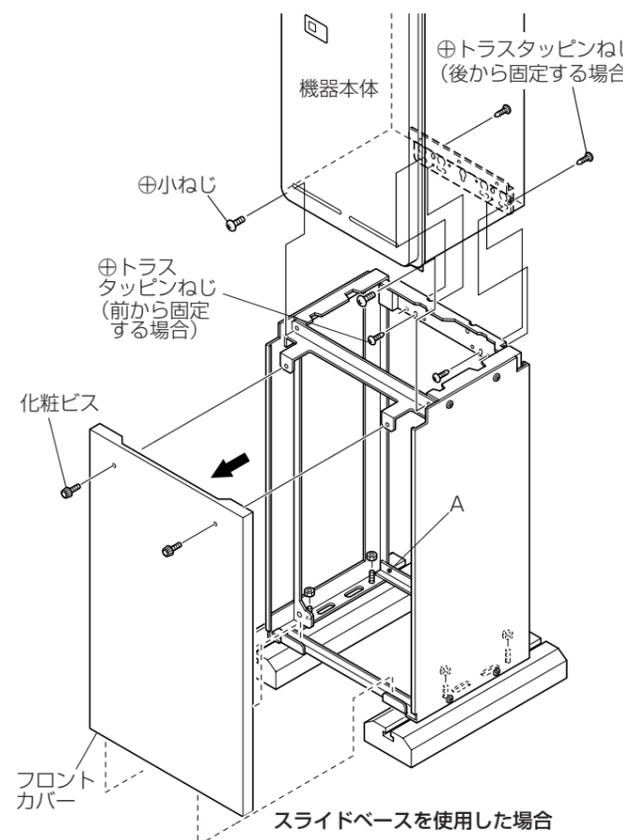
(4) 据置台のフロントカバーをはずします。(化粧ビス2本)

(5) 据置台を手順(1)で打ったアンカーボルトに固定します。

別売の据置台固定金具を使用する場合は、あらかじめ据置台のアジャストボルトをはずし、右図のように本体固定金具の長穴部を通して再び据置台の底部に取り付けます。

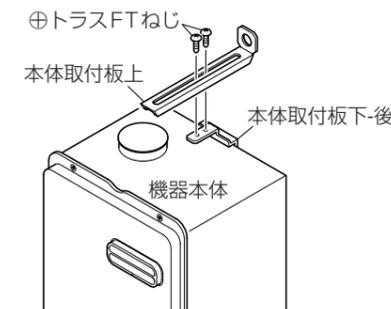
アンカーボルトに直付けの場合は、据置台のアジャストボルトは取りはずします。M8ボルト (アンカーボルト) 用ナットは現地手配してください。

(6) 機器本体を据置台の上のせ、付属の⊕小ねじ2本と⊕トラスタッピンねじ2本で固定します。

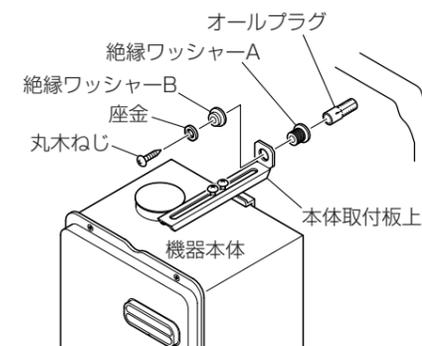


※上図の「A」の部品は、配管の事情により上方へ付け替えることもできます。

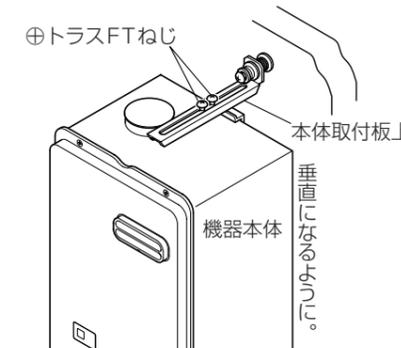
(7) 付属の本体取付板上を、手順(3)で取り付けられた本体取付板下-後に、付属の⊕トラスFTねじ2本で仮止めします。



(8) 手順(2)で打ち込んだオールプラグに、付属の絶縁ワッシャーA・絶縁ワッシャーB・座金・丸木ねじで、本体取付板上を固定します。



(9) 機器本体が垂直に安定するように本体取付板上をスライドさせて位置決めをし、手順(7)で仮止めした⊕トラスFTねじ2本を締め込んで固定します。



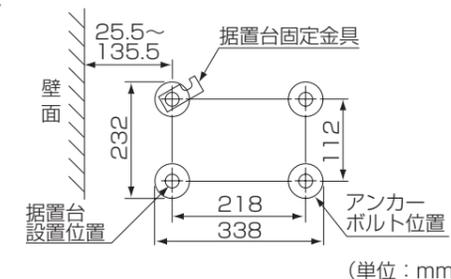
### ■ 熱源機を建物外壁に側面近接して据置設置する場合

※RF-1Wは防火評定上、側面近接設置をすることができません。

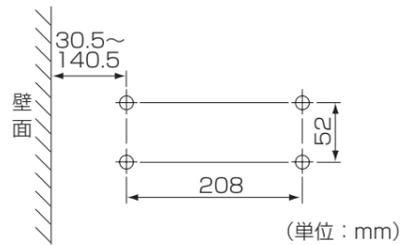
本書では、左側が壁面の場合を例に説明します。機器の右側が壁面に近接する場合も、手順は同様です。(必要に応じて別売の排気偏向アダプタを使用してください)

(1) 据置台の設置場所にアンカーボルトを打ちます。

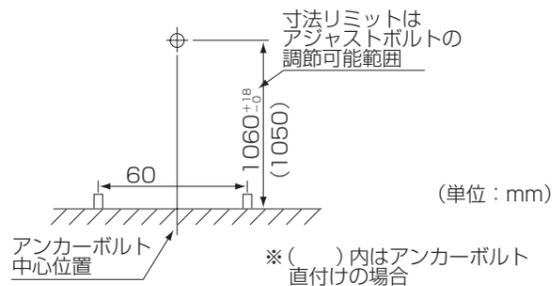
#### ● 別売の据置台固定金具を使用する場合



●直付けの場合

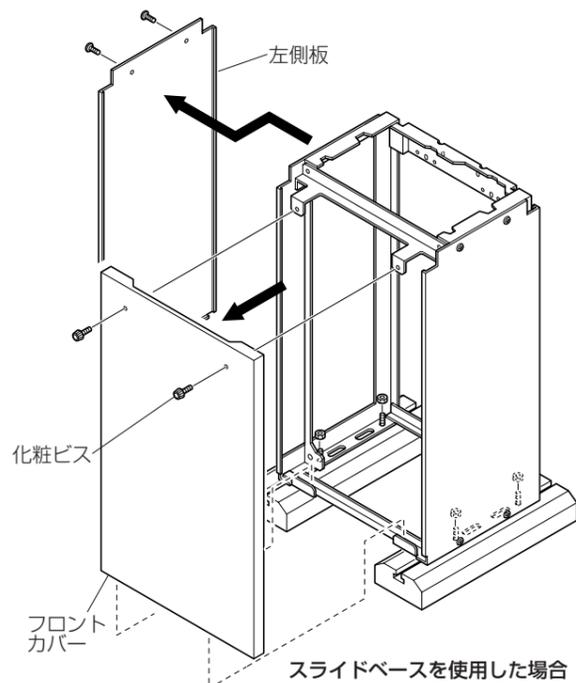


(2) 転倒防止金具固定用オールプラグを建物外壁に打ち込みます。下穴は径φ7mm、深さ30~35mmです。



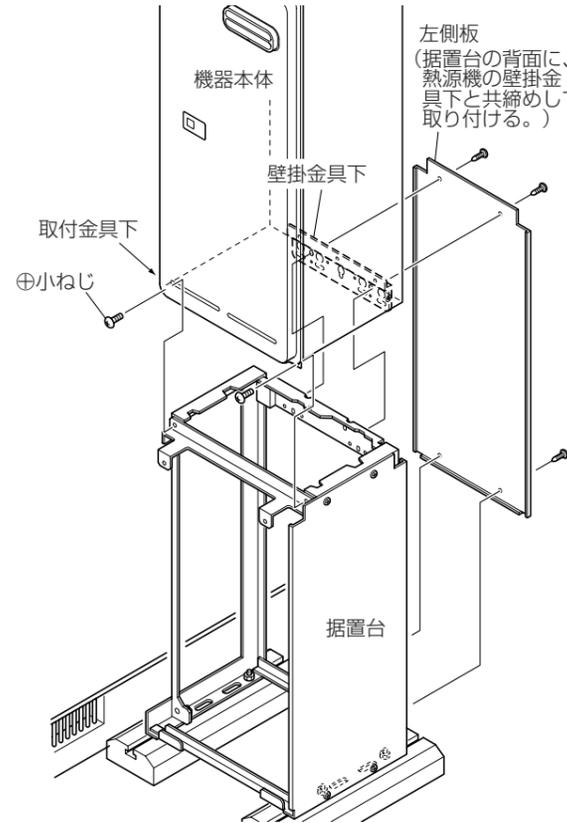
- (3) 据置台のフロントカバーをはずします。(化粧ビス2本)
- (4) 据置台の左側板を取りはずします。(ねじ4本) ねじは再度使用しますので、なくさないようにしてください。  
※機器本体の向かって右側面を外壁に近接設置しようとする場合には、据置台の右側板を取りはずしてください。

(5) 据置台を手順(1)で打ったアンカーボルトまたは別売の据置台固定金具に取り付けます。  
据置台固定金具を使用する場合は、あらかじめ据置台のアジャストボルトをはずし、右図のように据置台固定金具の長穴部を通して再び据置台の底部に取り付けます。  
アンカーボルトに直付けの場合は、据置台のアジャストボルトは取りはずします。M8ボルト(アンカーボルト)用ナットは現地手配してください。

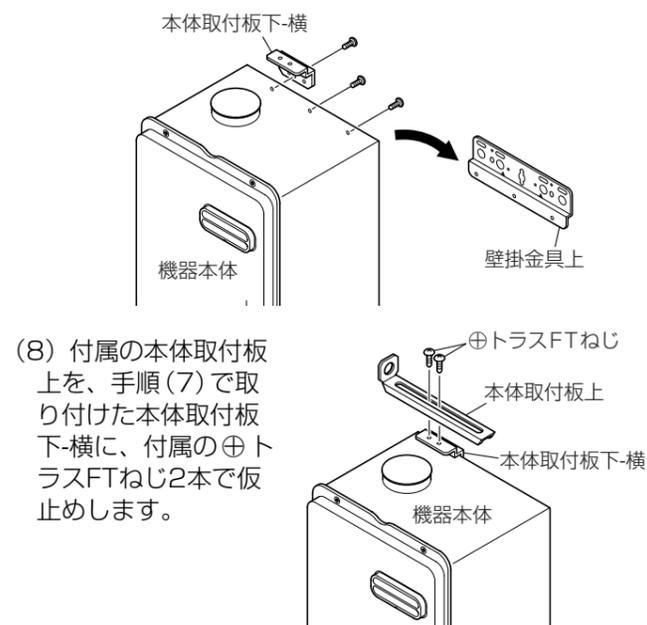


※スライドベースを壁面に垂直になるように設置すると、機器本体と壁面との距離を10mmまで縮めることができます。

- (6) 機器本体を据置台の上のせ、手順(4)で取り外した側板を、据置台の後面に取り付けます(手順(4)で取り外したねじを使用)。その際、機器本体の壁掛金具下も一緒に共締めしてください。  
更に、機器本体下部の左右の取付金具下も、付属の⊕小ねじ2本で固定します。

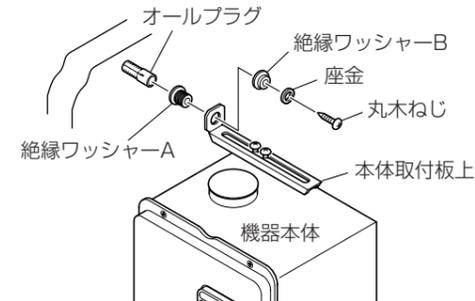


- (7) 機器本体に取り付けられている壁掛金具上を取り外します。その後、ねじ穴のうち外壁側の穴に、付属の本体取付板下横を、ねじ1本で取り付けます。残りのねじ穴にはもと通りねじを取り付けておいてください。

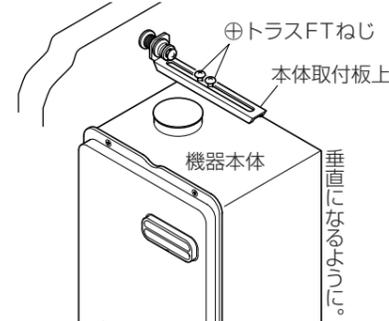


- (8) 付属の本体取付板上を、手順(7)で取り付けた本体取付板下横に、付属の⊕トラスFTねじ2本で仮止めします。

- (9) 手順(2)で打ち込んだオールプラグに、付属の絶縁ワッシャーA・絶縁ワッシャーB・座金・丸木ねじで、本体取付板上を固定します。



- (9) 機器本体が垂直に安定するように本体取付板上をスライドさせて位置決めをし、手順(8)で仮止めした⊕トラスFTねじ2本を締め込んで固定します。

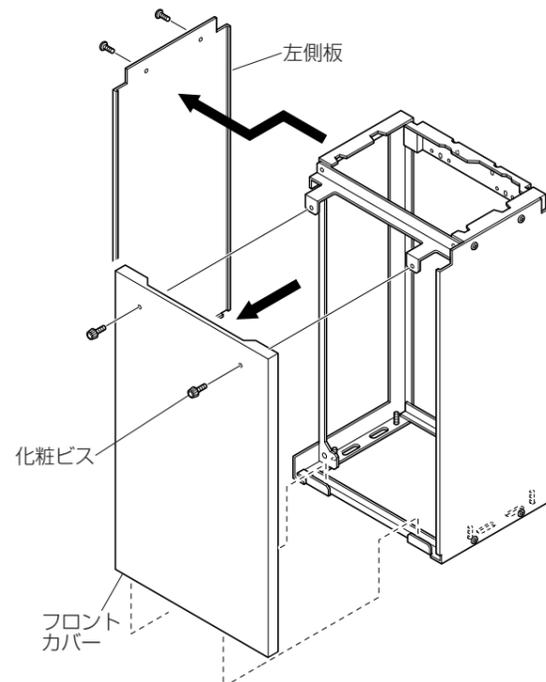


■熱源機を建物外壁に横向きに壁掛設置する場合

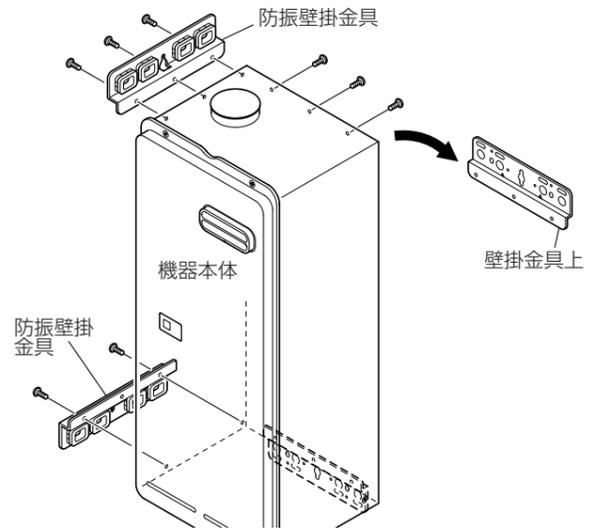
※RF-1Wは防火評定上、側面を壁掛けして設置をすることができません。

本書では、左側が壁面の場合を例に説明します。機器の右側を壁掛設置する場合も、手順は同様です。(必要に応じて別売の排気偏向アダプタを使用してください)

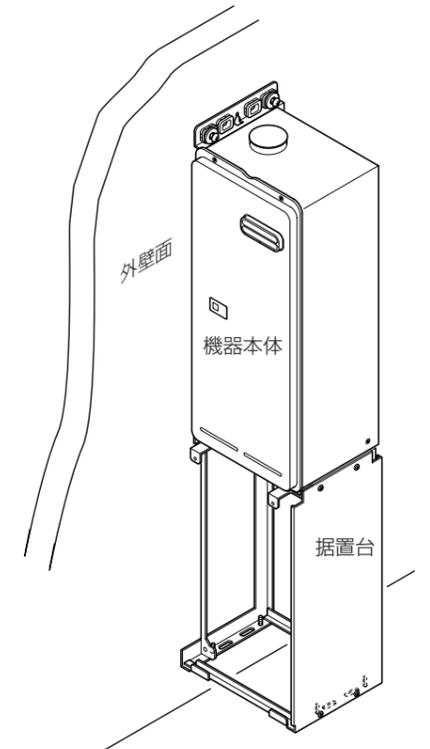
- (1) 据置台のフロントカバーをはずします。(化粧ビス2本)
- (2) 据置台の左側板を取りはずします。(ねじ4本)  
※機器本体の向かって右側面を壁掛設置しようとする場合には、据置台の右側板を取りはずしてください。



- (3) 機器本体の壁掛金具上を取り外します。ねじは機器本体にもと通り取り付けおいてください。  
次に機器本体の左側面に、別売の防振壁掛金具を取り付けます。機器本体の左側面に組み付けられているねじ5本(上3本、下2本)を使用してください。



- (4) 壁面に機器本体を壁掛設置します。  
壁掛設置の手順の詳細は、機器本体の設置工事説明書および防振壁掛金具に付属の工事説明書を参照してください。
- (5) 「■熱源機を建物外壁に側面近接して据置設置する場合」の手順(6)を参照し、機器本体に据置台を取り付けます。



4 据置台のフロントカバーの取り付け

接続工事や試運転、水抜き終了後は必ず据置台のフロントカバーをもと通り確実に固定してください。

フロントカバーを固定する化粧ビスがゆるかったり外れていたり、下部差込箇所が外れていると、フロントカバーが外れて、思わぬ事故の原因となります。